



# 関西経済レポート (10月号)

-  8月の鉱工業生産指数は前月比-2.3%と3カ月ぶりの下落。結果、7-8月平均は4-6月期に比して-0.3%の減産となった。9月の実質輸出は2カ月連続でプラスとなっているが、今後の生産増は楽観視できない。
-  9月の貿易動向は輸出は31カ月連続で前年比増加、輸入は2カ月ぶりの減少。結果、貿易収支は7カ月連続の黒字。
-  9月の消費者態度指数は2カ月ぶりに前月から悪化、景気ウォッチャー調査も3カ月連続で悪化が続いている。先行き見通しDIは上昇しているものの、中国経済情勢への懸念も見られる。
-  9月の大型小売店の販売額は、6カ月連続の前年比増加となり緩やかな回復。
-  9月新設住宅着工戸数は前年比-0.1%と2カ月連続の減少。
-  9月の有効求人倍率と新規求人倍率はともに上昇。失業率は前月から上昇し、6カ月連続の悪化となったが、新規求職の動きを反映した労働力人口の増加がみられ、雇用情勢は引き続き堅調である。
-  9月の公共工事請負金額は前年比-13.4%と3カ月連続の大幅マイナス。8月の建設工事は同+0.2%と6カ月連続のプラスも、伸びは微増。公共工事は、足下、前年比大幅減となっただけでなく、季節調整値でも3カ月連続の低下となったことから、本格的な減少トレンドに転じたと考えられる。
-  中国10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は前月から横ばい。3カ月連続で50を下回っており、中国市場は下方圧力が続いている。特に輸出新規受注指数は減速トレンドにある。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所  
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

# ～ 関西経済のトレンド ～

	2014年			2015年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	→	↘	—	—
貿易	↗	→	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	—
センチメント	↘	↘	↗	↗	↗	↗	→	↘	↗	↘	↘	↘	—
消費	↗	↗	↗	→	↗	↘	↗	↗	→	↗	↗	↗	—
住宅	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↗	↗	→	→	→	—
雇用	↗	↗	↗	→	→	→	↗	↗	→	↗	↗	↗	—
公共工事	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	—
中国	→	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	↘	→	→

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

# ～生産～

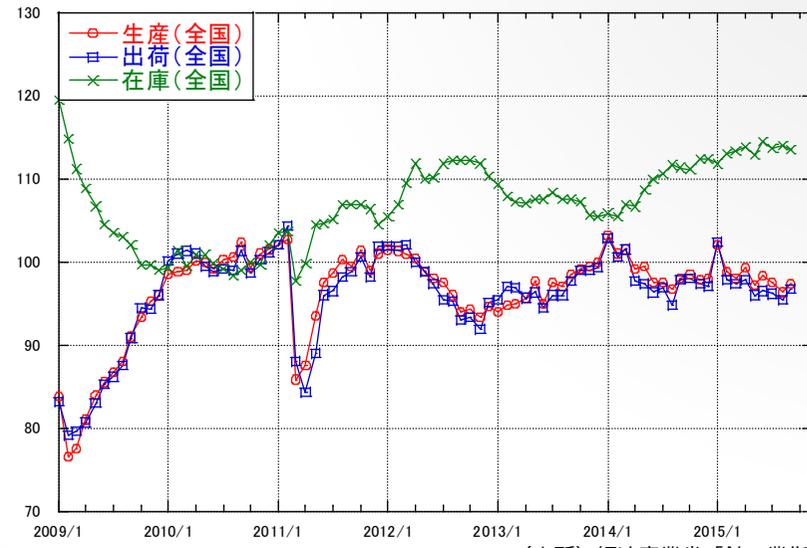
鉱工業指数の推移（近畿・2015年8月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における8月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産が100.4で前月比-2.3%、出荷が98.7で同-1.8%といずれも3カ月ぶりの下落。在庫は118.0で同-0.8%と5カ月ぶりの下落となった。
- 業種別にみると、輸送機械(同+4.6%,2カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同+6.1%,2カ月連続)、プラスチック製品(同+6.2%,2カ月ぶり)等は増産となった。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-7.1%,2カ月連続)、化学(除.医薬品)(同-7.8%,5カ月ぶり)、金属製品(同-14.3%,2カ月ぶり)等が減産となった。
- 7-8月平均の生産は4-6月期と比較して-0.3%の減産となった。8、9月と近畿の実質輸出はプラスが続いているが、8月の大きく生産が減少した。8月の中国におけるイベントにより、輸出と生産動向に変化が起きている可能性がある。このため、9月も生産動向は楽観視できない。

鉱工業指数の推移（全国・2015年9月まで）、2010年=100

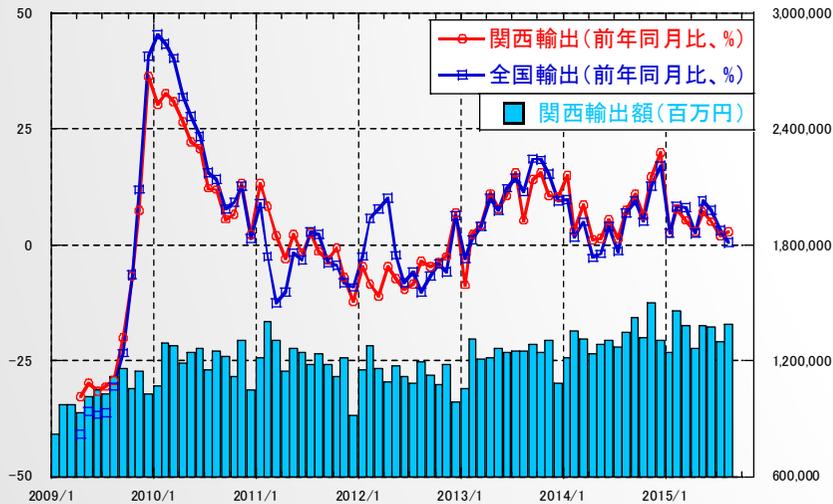


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における9月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は97.3となり前月比+1.0%、出荷は96.7で同+1.3%、といずれも3カ月ぶりの上昇。在庫は113.5で同-0.4%と2カ月ぶりの下落。
- 業種別にみると、化学(除.医薬品)(同+5.4%,2カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同+6.0%,5カ月ぶり)、電気機械(同+5.4%,5カ月ぶり)等が増産となった。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-4.8%,3カ月連続)、窯業・土石製品(同-1.7%,2カ月連続)、プラスチック製品(同-0.7%,3カ月連続)等は減産となった。
- 7-9月期の生産は前期比-1.3%と2期連続の減産となった。また、製造工業生産予測調査では10月は前月比+4.1%の増産が予測されているが、11月は同-0.3%と小幅の減産となっている。生産の回復は見通しにくい。

# ～輸出入～

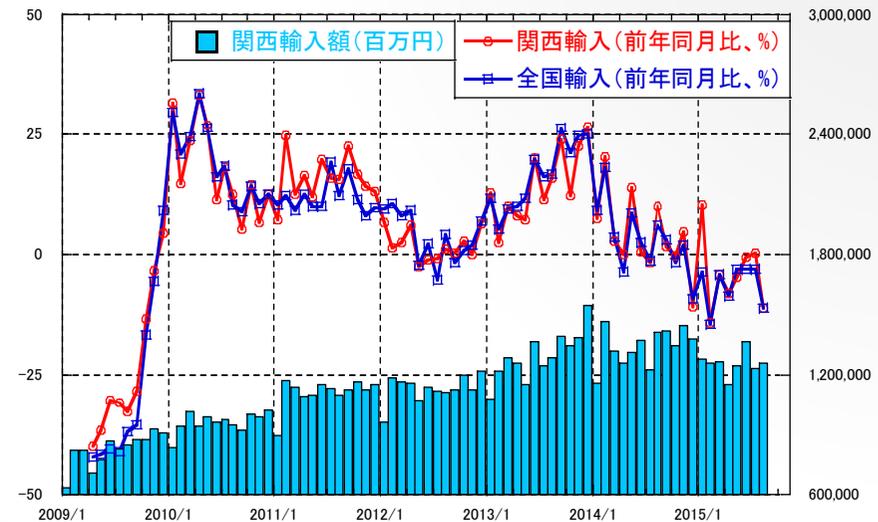
輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2015年9月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西9月の輸出額(確報値)は1兆3,868億円。前年同月比+2.8%と31カ月連続の増加。
- 財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、通信機(過去最高額)、半導体等電子部品(過去最高額)であった。一方、有機化合物、鉄鋼は減少となった。
- 全国9月の輸出額(確報値)は6兆4,170億円となり、前年同月比+0.5%と13カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、通信機等の輸出が増加した。
- なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は120.92円と前年同月比15.2%の円安であった。

輸入動向 (右：輸入額、左：前年同月比) (2015年9月まで)

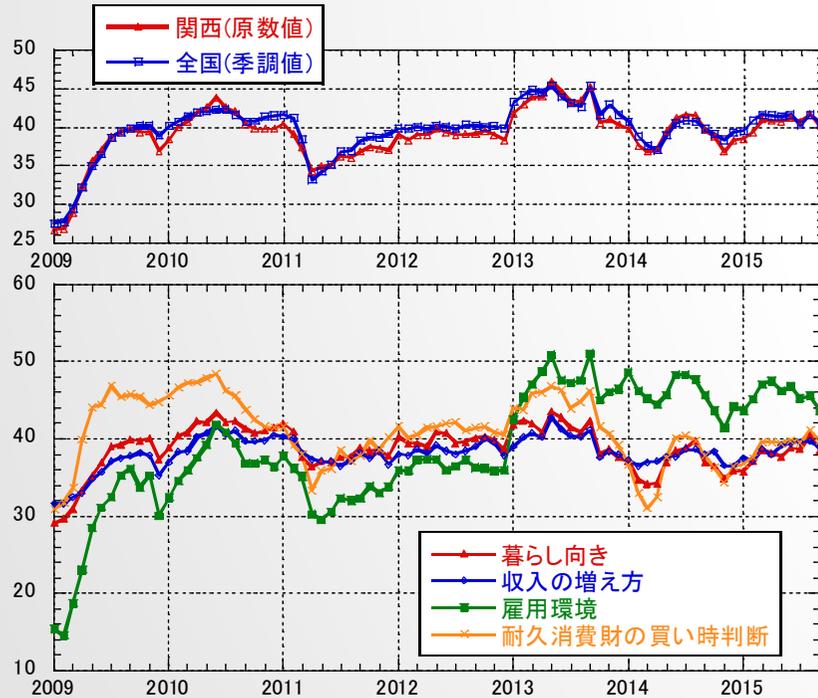


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西9月の輸入額(速報値)は1兆2,579億円、伸びは前年同月比-11.1%と2カ月ぶりの減少。
- 財別に見れば、原油及び粗油、通信機が減少した。一方、衣類及び同付属品(過去最高額)、音響・映像機器(含部品)は増加となった。
- 全国9月の輸入額(速報値)は6兆5,328億円、前年同月比-11.0%と9カ月連続の減少。財別に見れば、引き続き、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少している。
- 結果、9月関西の貿易収支は+1,289億円と7カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月から1,961億円改善した。全国の貿易収支(確速値)は-1,158億円と6カ月連続の赤字となったものの、赤字幅は前年同月から-88.0%縮小した。 2

# ～消費者センチメント～

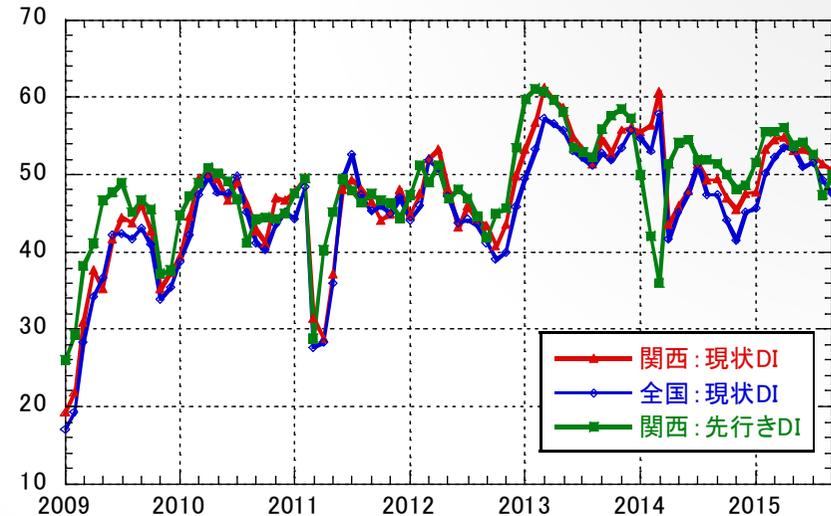
消費者態度指数(2015年9月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 関西の9月の消費者態度指数(原数値)は前月比-1.5ポイントの40.2と2カ月ぶりに悪化した。全国(季節調整値)でも同-1.1ポイントの40.6と2カ月ぶりの悪化。中国経済の減速による株価急落や食料品など身の回り品の高値などが影響したとみられる。
- 関西で同指数の構成項目をみると、9月は4つの意識指標全てが前月から悪化した。「雇用環境」が同-1.9ポイント、「暮らし向き」は同-1.8ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同-1.4ポイントと、いずれも2カ月ぶりの下落。「収入の増え方」も-0.8ポイント低下し、5カ月ぶりの下落となった。

景気ウォッチャー調査(2015年9月まで)

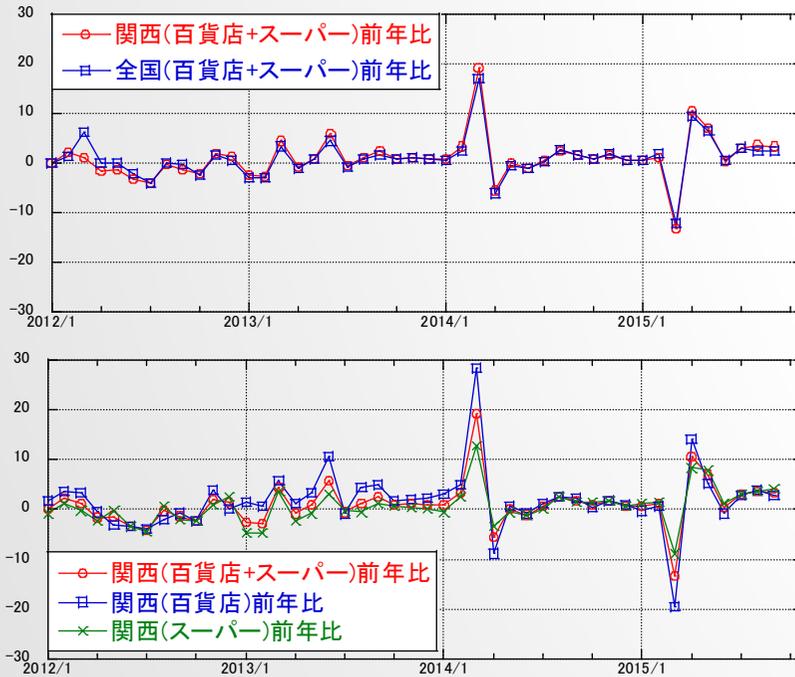


(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の9月の現状判断DIは前月比-0.9ポイント低下の50.5となり、3カ月連続の悪化。月前半の気温が低いことによる季節商品の売上不振や、雨天による客足の減少、中国経済減速が株価下落を招き、マインド面に悪影響が出たことなどが要因となった。全国は同-1.8ポイント低下し47.5となり、2カ月連続の悪化。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を2カ月連続で下回った。
- 先行き判断DIは、関西では49.9と前月比+2.6ポイント上昇し、3カ月ぶりの上昇となったものの、2カ月連続で50を下回っている。プレミアム商品券や年末に向けた景気の盛り上がりの期待が先行き見通しを押し上げている一方で、引き続き中国経済情勢への懸念も見られる。

# ～個人消費・住宅～

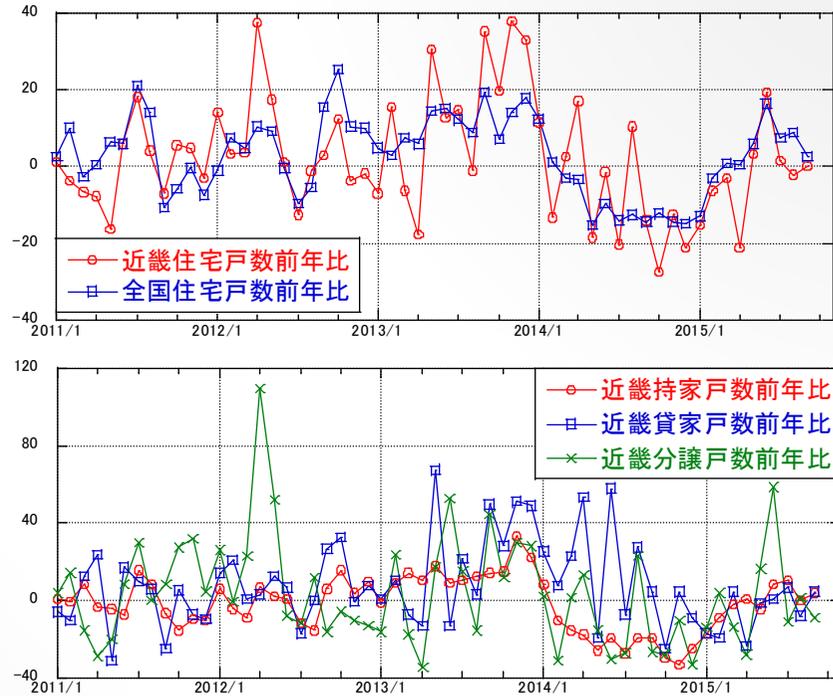
大型小売店販売額（前年同月比：％、2015年9月まで）



(注) 福井県を含む。  
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- 関西9月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+3.5%増加。6カ月連続のプラス。
- 百貨店は同+2.7%増加し、3カ月連続のプラス。
- スーパーは同+4.1%と6カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(9月、全店ベース)は同+2.6%と6カ月連続のプラス。
- 関西、全国共に消費は好調を維持している。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年9月まで)

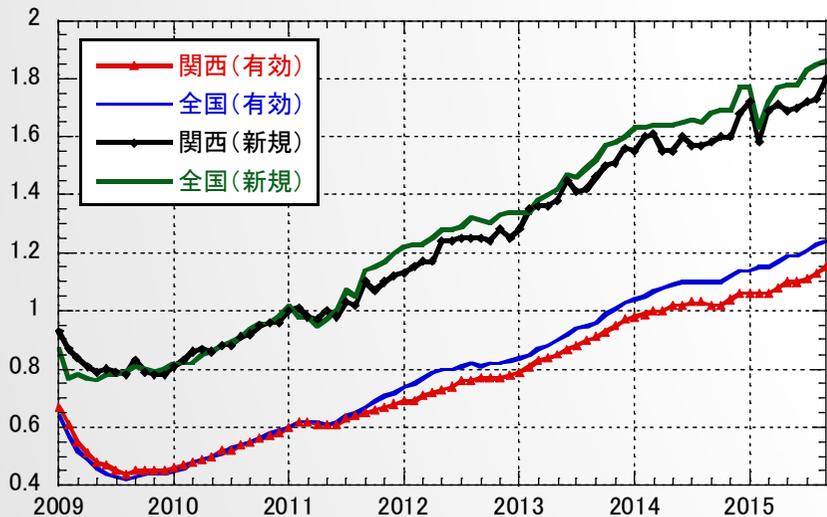


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西9月の新設住宅着工戸数は11,697戸。前年同月比-0.1%微減し、2カ月連続のマイナス。
- 全国は77,872戸、同+2.6%増加し7カ月連続のプラス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は3,114戸、同+3.6%と2カ月ぶりの増加。貸家は5,191戸、同+4.2%と2カ月ぶりのプラス。分譲は3,375戸、同-8.6%減少し、2カ月ぶりのマイナス。
- 9月の関西マンション契約率は69.3%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を7カ月ぶりに下回った。首都圏は72.3%(季節調整値、APIR推計)となった。
- 足下、関西の新設住宅着工、マンション契約率は共に低下となった。

# ～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2015年9月まで)



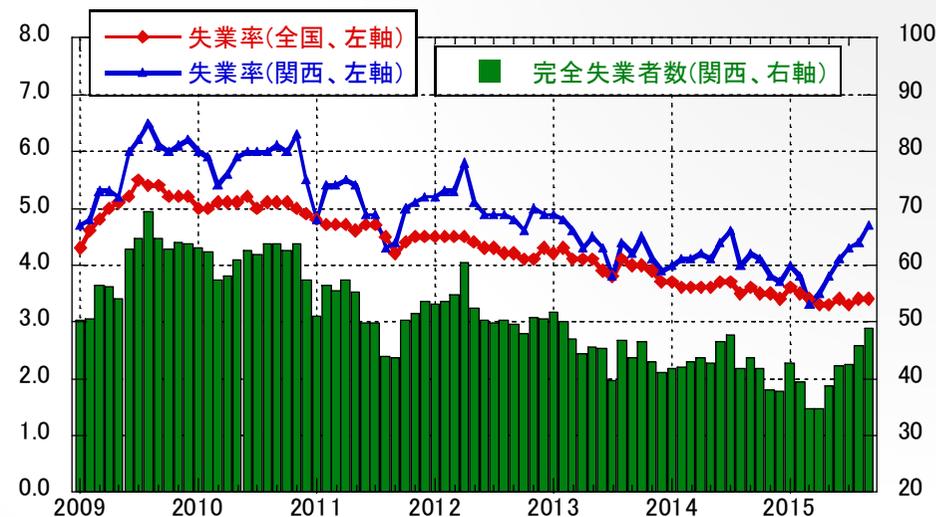
(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年9月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
9月	1.24	1.15	1.07	1.24	1.22	1.02	1.02	1.12
8月	1.23	1.13	1.06	1.18	1.22	1.00	1.06	1.05

- 9月の関西の有効求人倍率は、1.15倍で前月比+0.02ポイント上昇し、3カ月連続の上昇。1991年8月(1.15倍)に並ぶ高水準。全国は1.24倍で同+0.01ポイント上昇し、こちらも3カ月連続の上昇。1992年1月(1.25倍)以来の高水準となった。雇用情勢は引き続き堅調である。
- 府県別では、全ての府県で2カ月連続の1倍台。和歌山県で前月比+0.07ポイント、京都府で同+0.06ポイント、兵庫県は同+0.02ポイント、滋賀県では同+0.01ポイント上昇。一方、大阪府は横ばい、奈良県は同-0.04ポイント低下。
- 9月の関西の新規求人倍率は、1.80倍と前月比+0.07ポイント上昇。全国は1.86倍と同+0.01ポイント上昇した。
- 大阪の産業別新規求人数は、宿泊・飲食サービス業で前年同月比-14.9%と3カ月ぶりのマイナス。一方、運輸業・郵便業、教育・学習支援業、医療・福祉、建設業で増加。

完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2015年9月まで)

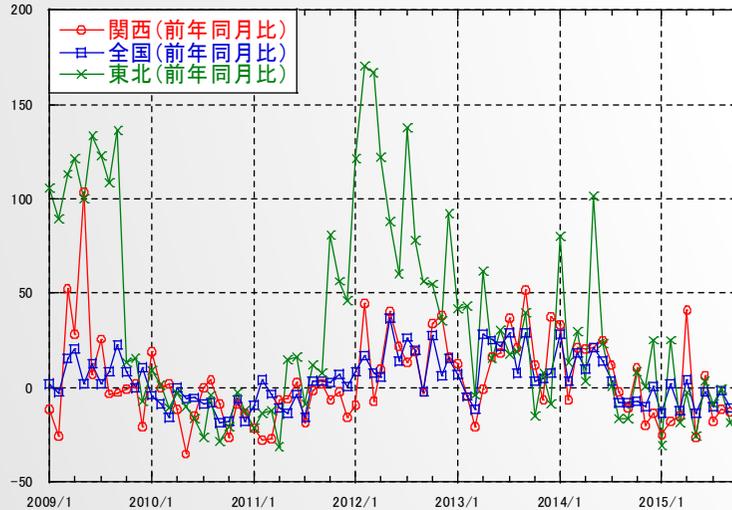


(出所) 総務省「労働力調査」

- 9月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.7%で前月(4.4%)から0.3%ポイント上昇し、6カ月連続の悪化。しかし、労働力人口(季節調整値)が増加しており、新規求職の動きが続いていることが背景にある。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は49.0万人で前月(45.7万人)から3.3万人増加した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%と前月から横ばい。完全失業者数(季節調整値)は228万人と前月比+4万人増加したが、求職理由別にみると、自発的な離職(自己都合)や新たに就職を行った人が増加しており、より良い条件を求めて労働市場に参入する動きがみられる。
- 15～64歳の就業率(原数値、全国ベース)をみると、73.9%となり、前年同月比+0.8%ポイント上昇。特に25～34歳の女性で上昇が目立つ。

# ～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比：％、2015年9月まで)

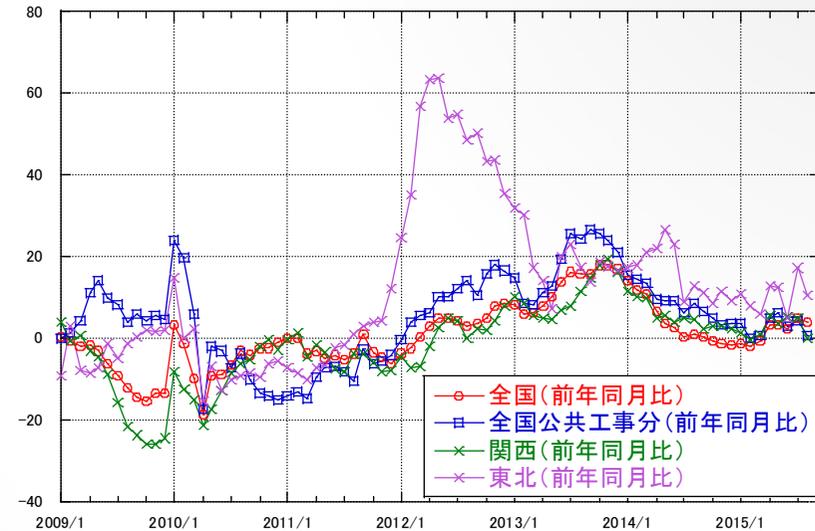


(注) 福井県を含む。

(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西9月の公共工事請負額は1,286億円で前年同月比-13.4%と3カ月連続で2桁のマイナスとなった。
- 全国は1兆2,461億円で同-10.9%と5カ月連続のマイナス。
- 東北は1,873億円で同-19.0%と3カ月連続のマイナスとなった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に3カ月連続で前月から減少(関西：同-2.5%、全国：同-6.1%)。関西の7-9月期は前期比-24.1%と2期ぶりのマイナス。
- 足下、前年比で大幅減となっただけでなく、季節調整値でも3カ月連続の低下となったことから、公共工事請負額は本格的な減少トレンドに転じたと考えられる。

建設工事(前年同月比：％、2015年8月まで)

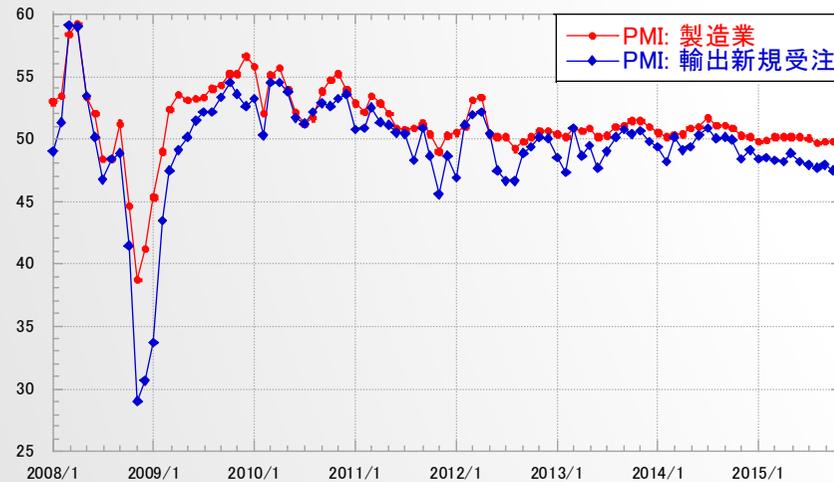


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西8月の建設工事は5,074億円、前年同月比+0.2%と6カ月連続の増加も、伸びは微増となった。
- 東北は5,722億円、同+10.7%と49カ月連続の増加。
- 全国は4兆1,959億円となり、同+4.1%と5カ月連続の増加。
- うち、全国の公共工事は1兆7,173億円で同+0.8%と43カ月連続の増加も、伸びは17カ月連続で1桁にとどまった。
- 伸びはプラスを維持しているものの、公共工事の減速もあり、関西の建設工事動向は停滞が見られる。

# ～中国経済動向①～

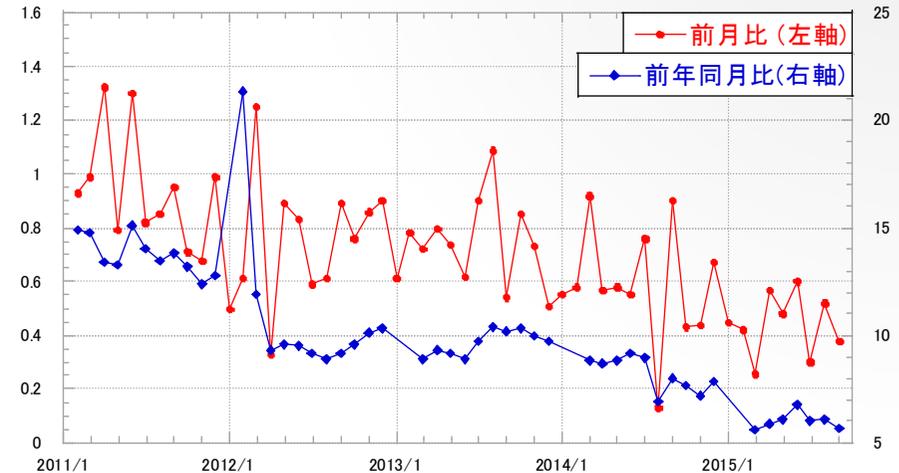
製造業購買担当者景況指数 (2015年10月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.8となり、前月から横ばいである。3カ月連続で50を下回っている。
- うち、生産指数は52.2となり、前月から-0.1ポイント下落した。2カ月ぶりの悪化である。新規受注指数は50.3となり、同+0.1ポイント上昇し、2カ月連続のプラス。また、輸出新規受注指数は47.4となり、同-0.5ポイント下落した。2カ月ぶりの悪化である。雇用指数は47.8となり、同-0.1ポイント下落した。
- PMIから見ると、中国市場は下方圧力が続いている。特に輸出新規受注指数は減速トレンドにある。

工業生産指数(2015年9月まで：%)

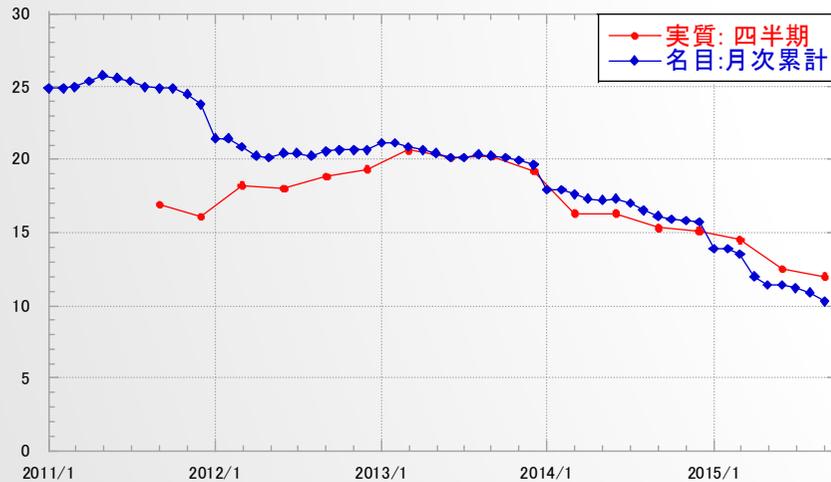


(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 9月の工業生産は前月比+0.38%となり、前月から-0.14%ポイント下落した。前年同月比は+5.7%となり、伸びは前月から-0.4%ポイント下落、昨年同年の伸び率(+8.22%)を下回る状況が続いている。
- 産業別に見ると、有色金属压延加工业(同+11.9%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+10.5%)、医薬製造業(同+10.7%)、化学原料・製品製造業(同+9.6%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+9.0%)等が高い伸びを示す一方で、自動車製造業(同+2.7%)、通用設備製造業(同+2.2%)、電力・熱力生産・供給業(同-0.1%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

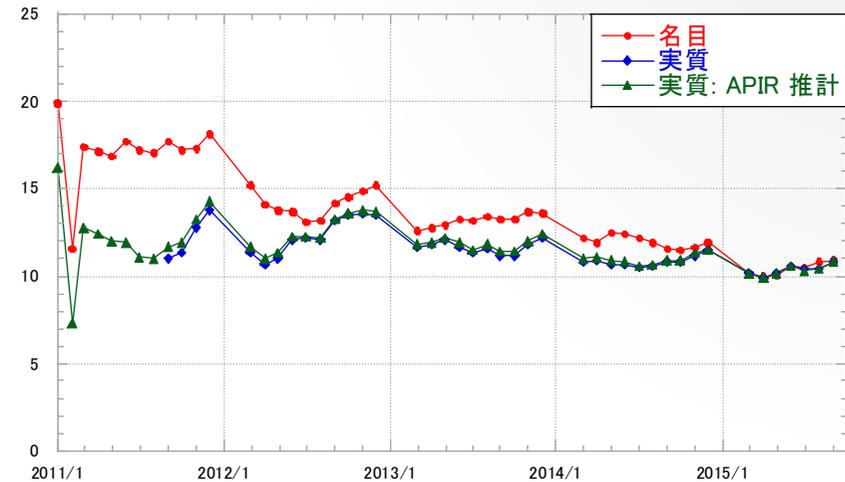
## ～中国経済動向②～

固定資産投資 (2015年9月まで：%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

社会消費品小売総額 (2015年9月まで：%)



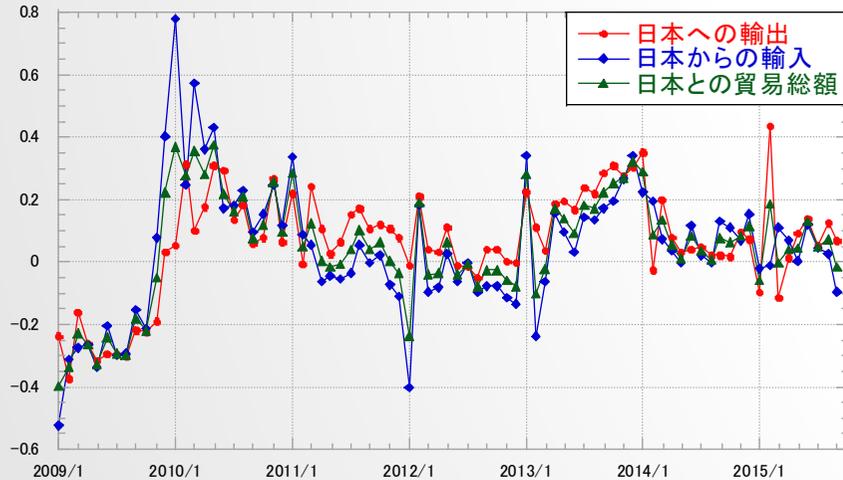
(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計  
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 1-9月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+10.3%、伸びは3カ月連続の低下となった(1-8月期:+10.9%)。2014年後半以降急激な減速が続き、2000年12月(+9.7%)以来の低水準となった。
- 産業別にみれば、第1次産業は同+27.4%、1-8月期(同+28.5%)より-1.1%ポイント減少。第2次産業は同+8.0%(1-8月期:+8.5%)、7カ月連続の減速。第3次産業同+11.2%(1-8月期:+11.9%)、3カ月連続の減速となった。

- 9月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.9%、2カ月連続の上昇であるが、昨年通年の伸び(同+12.0%)を依然下回っている。

# ～中国経済動向③～

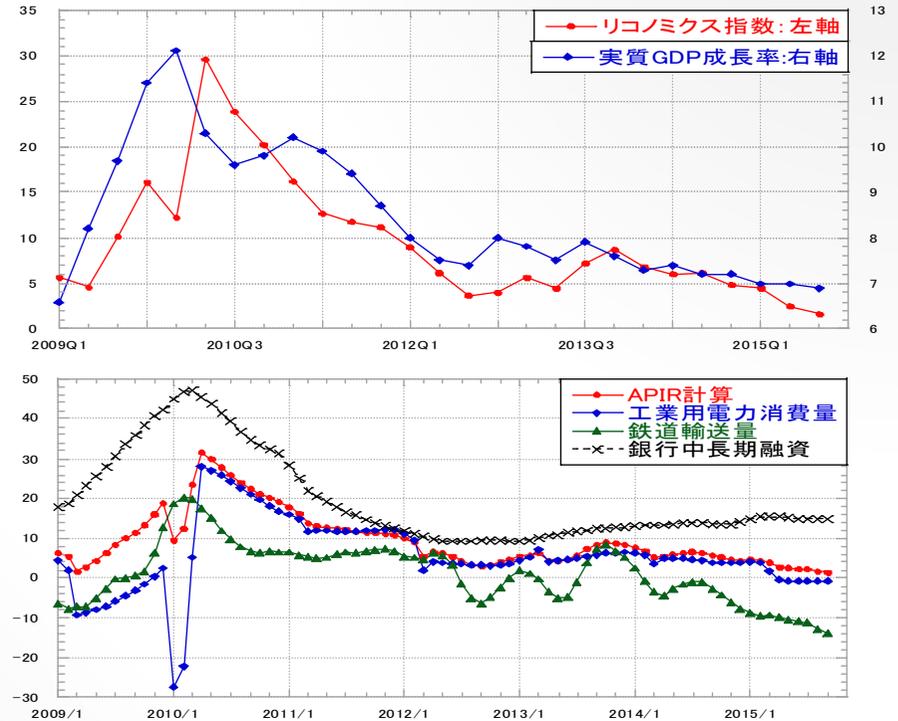
日本との貿易 (前年同月比：円ベース)(2015年9月まで：%)



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

- 9月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-3.8%と3カ月連続のマイナス。輸入額は同-20.5%(速報値)と内需の低迷を反映し11カ月連続のマイナス。減少幅は前月(同-13.9%)より拡大した。
- うち、日本への輸出額は同-4.6%と7カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-19.3%と11カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+7.0%となり、6カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同-9.4%、7カ月ぶりのマイナスとなった。

APIR試算のリコノミクス指数と実質GDP成長率の推移

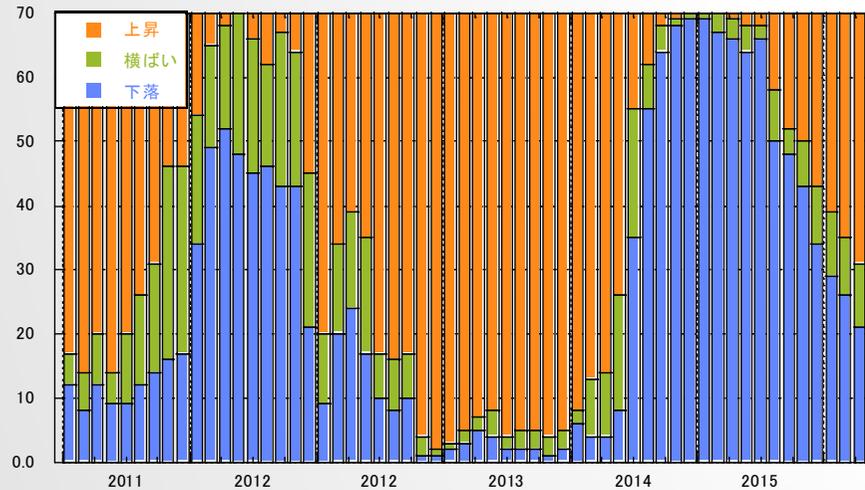


(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース; APIR計算

- 2015年7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.9%と、前期(同+7.0%)から小幅に減少となった。しかし、景気の動向を良く示すと言われているリコノミクス指数(APIR試算)は減速の傾向が読み取れる。
- 具体的にAPIRが試算したリコノミクス指数の内訳をみると、銀行中長期融資は横ばいの傾向を維持しているが、工業用電力消費量は2015年4月からマイナスに、鉄道輸送量は2014年2月からマイナスが続いている。

## ～中国経済動向④～

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年9月まで：都市数)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、9月は21都市で前月から下落した。39都市で同上昇、10都市で横ばいとなった。下落した都市の数は7カ月連続の減少となった。
- 地域別に見ると、1級・2級都市はやや回復している一方で、3級・4級都市は住宅需要が弱まっている状況であるため、不動産の市況は楽観視できない。

求人求職倍率 (2015年7-9月期まで)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEICデータベース; APIR計算

- 7-9月期の有効求人倍率は1.09となり、4-6月期(1.06)より小幅上昇した。求人倍率を地域別に見ると、東部は1.08(4-6月期1.03)、中部は1.11(同1.11)、西部は1.12(同1.08)となっている。労働需給は相対的に改善傾向にある。

## ※関西経済のトレンド 評価基準について

- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。